

薬品名	エペレンゾ	ダーブロック	パフセオ	エナロイ	マスーレッド
成分名	ロキサデュスタット	ダプロデュスタット	バダデュスタット	エナロデュスタット	モリデュスタット
規格(種類)	20/50/100mg(3種類)	1/2/4/6mg(4種類)	150/300mg(2種類)	2/4mg(2種類)	5/12.5/25/50/75mg(5種類)
用法用量	<p>■保存期CKD、HD</p> <p>◆赤血球造血刺激因子製剤で未治療の場合 1回50mgを開始用量とし、週3回経口投与する。最高用量は1回3.0mg/kg</p> <p>◆赤血球造血刺激因子製剤から切替 1回70mg又は100mgを開始用量とし、週3回経口投与する。最高用量は1回3.0mg/kg</p>	<p>■保存期CKD</p> <p>◆赤血球造血刺激因子製剤で未治療 1回2mg又は4mgを開始用量とし、1日1回経口投与する。最高用量は1日1回24mg</p> <p>◆赤血球造血刺激因子製剤から切替 1回4mgを開始用量とし、1日1回経口投与する。最高用量は1日1回24mg</p> <p>■HD</p> <p>1回4mgを開始用量とし、1日1回経口投与する。最高用量は1日1回24mg</p>	<p>■保存期CKD、HD</p> <p>1回300mgを開始用量とし、1日1回経口投与する。最高用量は1日1回600mg</p>	<p>■保存期CKD、PD</p> <p>1回2mgを開始用量とし、1日1回食前又は就寝前に経口投与する。最高用量は1回8mg</p> <p>■HD</p> <p>1回4mgを開始用量とし、1日1回食前又は就寝前に経口投与する。最高用量は1回8mg</p>	<p>■保存期CKD</p> <p>◆赤血球造血刺激因子製剤で未治療 1回25mgを開始用量とし、1日1回食後に経口投与する。最高用量は1回200mg</p> <p>◆赤血球造血刺激因子製剤から切替 1回25mg又は50mgを開始用量とし、1日1回食後に経口投与する。最高用量は1回200mg</p> <p>■HD</p> <p>1回75mgを開始用量とし、1日1回食後に経口投与する。最高用量は1回200mg</p>
食事の影響 青＝影響なし 赤＝影響あり	食後に単回経口投与したときのCmaxの平均値は、空腹時単回経口投与と比較して20%低値であったが、AUCinfへの影響はわずかであった	健康成人に本剤4mgを慢性腎臓病の食事療法基準食の食後に経口投与した時、AUC0-∞及びCmaxは、空腹時投与に比べてそれぞれ9及び11%減少した	単回投与した時のCmax及びAUC0-∞の比(%) (食後/空腹時)は、73%及び94%であった。空腹時と比較して、tmaxは食後投与で約1.5時間延長	食後に単回経口投与した時のCmax及びAUCinfは、空腹時投与と比較してそれぞれ47%及び26%低下した	空腹時又は食後に経口投与したとき、食後投与では空腹時投与と比べてAUC(0-∞)及びCmaxはそれぞれ23.3%及び41.1%低下し、tmaxは1時間遅延した。
半減期	9～15hr(HD 15～20hr)	3.2hr	6hr	8～9hr(HD 11hr)	5.57～9.69hr
バイオアベイラビリティ	85.6～100%	65%	75%以上	39.4～74.5%	59%
透析性	除去されない	除去されない	除去されない	除去率6.74% ほとんど除去されない	除去率5%未満 ほとんど除去されない
相互作用					
リン吸着薬	リン吸着薬との同時投与を避ける	なし	なし	リン吸着薬との同時投与を避ける	なし
金属イオン	金属イオン製剤(Mg、Al、Fe、Ca)と同時投与でキレート形成	なし	金属イオン製剤(Mg、Al、Fe、Ca)と同時投与でキレート形成	金属イオン製剤(Mg、Al、Fe、Ca)と同時投与でキレート形成	金属イオン製剤(Mg、Al、Fe、Ca)と同時投与でキレート形成
CYP、トランスポーター	CYP、トランスポーター関与あり	CYP2C8基質	トランスポーター関与あり	臨床用量での影響はない	トランスポーター関与あり
薬価(開始用量で比較)	793.9円/錠(50mg)週3回	327.4円/錠(4mg)	376.2円/錠(300mg)	275.9円/錠(2mg)	165.1円/錠(25mg)